



## 平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月12日

上場取引所 札

上場会社名 健康コーポレーション株式会社  
コード番号 2928 URL <http://www.kenkoucorp.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 瀬戸 健  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 香西 哲雄

TEL 03-5337-1337

四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	12,132	43.1	27	—	△75	—	△52	—
27年3月期第1四半期	8,481	84.2	△459	—	△515	—	49	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 △187百万円 (—%) 27年3月期第1四半期 87百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	△0.42	—
27年3月期第1四半期	0.40	—

(注) 1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
2. 1株あたり四半期純利益については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	42,412	10,143	21.5
27年3月期	39,294	7,486	16.8

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 9,098百万円 27年3月期 6,601百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	2.50	2.50
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	—	9.26 ～9.75

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
2. 年間配当金については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。  
3. 平成28年3月期 期末配当金については、連結配当性向18%～20%に基づく通常配当に、上場10周年を記念した連結配当性向20%の特別配当を加えた年間配当9円26銭～9円75銭を予定しております。また、その算定には、平成27年8月11日時点の発行済株式数を用いております。

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,938	40.9	602	665.4	437	—	345	55.9	2.75
通期	60,130	53.8	5,004	137.4	4,676	140.2	3,052	86.5	24.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※1株当たり当期純利益の算定には、平成27年8月11日時点の発行済株式数を用いております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期1Q	127,436,000 株	27年3月期	123,536,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	0 株	27年3月期	0 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期1Q	125,230,395 株	27年3月期1Q	123,436,000 株

(注)1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
2. 株式数については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	P. 4
4. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 9
(重要な後発事象)	P. 10

当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成27年8月13日(木)・・・・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

上記説明会のほかにも、当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

・平成27年8月12日(水)・・・・・・個人投資家向けインターネット会社説明会

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日～平成27年6月30日）における我が国経済は、緩やかな回復基調が続いていましたが、中国経済をはじめとした海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要性がありました。

このような経営環境の下、当社グループは最大の強みである広告宣伝活動を活かした事業シナジーの最大化に取り組んでまいりました。当社連結子会社エムシーツー株式会社について、コールセンター事業については本業とより関連性の深い当社がCRM（Customer Relationship Management）強化の一環として取り込んで内製化しており、また、グループ戦略上その他の事業についてはSDエンターテイメント株式会社に組み込むことでより業容拡大につながると判断したため、同社子会社の3社（ITグループ株式会社・ITネクスト株式会社・IT Telemarketing株式会社）も含めて、SDエンターテイメント株式会社に株式譲渡し、グループ内企業再編を進めました。

RIZAP株式会社が運営するパーソナルトレーニング事業のRIZAPにおいては、ブランド訴求力を高めたCM放映や広告出稿等、高付加価値を訴求した広告宣伝活動を積極的に進めました。RIZAPのTVCM『香取慎吾：居酒屋でさりげなく篇』が平成27年5月前期CM好感度ランキングの作品別で2位を獲得し、ブランド認知の向上に貢献いたしました。また、大型店8店舗（サテライト店からの転換4店舗含む）、サテライト店9店舗、海外1店舗を出店し、業容の拡大を進めました。一方、一部週刊誌等の報道により、新規のお問い合わせの件数が一時的に落ち込みましたが、広告媒体に依存しないゲストからの紹介による新規顧客獲得数が前期平均の約5倍に伸びた結果、平成27年6月には、過去最高の売上高を計上いたしました。

当社の通販事業におきましては、当社のビジネスモデルとして、事業年度の上期において積極的に広告宣伝費を投下することで新規顧客を獲得し、下期においては広告宣伝費を抑制し、上期で獲得した新規顧客等によるリピート購入によって利益回収を行うため、毎期、第1四半期から第2四半期にかけては広告宣伝費を主とした販売費が増加し営業損失を計上する傾向となります。しかしながら当第1四半期連結累計期間においては、前第4四半期連結会計期間に広告宣伝費を先行投資として積み増した結果、新規顧客の獲得効率が堅調に推移したため、収益性が向上し、営業損益の黒字化を達成いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高12,132百万円（前第1四半期連結累計期間は8,481百万円）、営業利益27百万円（前第1四半期連結累計期間は△459百万円）、経常損益△75百万円（前第1四半期連結累計期間は△515百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損益は△52百万円（前第1四半期連結累計期間は49百万円）となりました。

セグメント別の事業概況は、次のとおりであります。

#### (美容・健康関連事業)

美容・健康関連事業におけるグループ会社につきましては、RIZAP株式会社は当社プロデュースによる積極的な広告宣伝活動が奏功し、新規獲得会員数を更に伸ばし、累計35,000人を超え、平成27年5月、6月と連続して月間売上高及びご利用人数の過去最高を更新いたしました。今後も積極的な出店に加えて、パーソナルトレーナーのサービスレベルの向上に取り組んでまいります。株式会社ジャパングャルズは為替の影響による原材料高の影響があったもののOEM化粧品及び美容機器の販売が堅調に推移し、加えて海外の販路拡大に向け取り組んでまいりました。株式会社ジャパングャルズSCはフェイスマスクの販売が好調に推移しました。株式会社エーエーディはグループ内の印刷物等の制作物の需要を積極的に取り込み、さらに外部からの受注に向けて業容を拡大してまいりました。

この分野における当社通販事業におきましては、美容・スキンケアカテゴリの「どろあわわ」は新規顧客の獲得が堅調に推移したことに加え、キャンペーンや卸売が好調に推移いたしました。機器・グッズカテゴリの「ボニック」は一時売り切れになるほど好調に推移しました。健康食品カテゴリの「ひとてまい」の新規顧客の獲得が好調に推移しました。施策面では、定期購入顧客に関する継続率向上の取り組み、サンプル購入顧客を定期購入顧客へ引き上げる取り組み及び新規クリエイティブやクロスセルに注力してまいりました。

この結果、美容・健康関連事業での売上高は6,388百万円（前第1四半期連結累計期間は4,059百万円）、営業損益は204百万円（前第1四半期連結累計期間は△123百万円）となりました。

#### (アパレル関連事業)

アパレル関連事業は、マタニティウェアや出産祝いギフト等を販売する株式会社エンジェリーベ、婦人服を企画、製造販売する株式会社馬里邑、婦人服及び紳士服を企画、販売する株式会社アンティローザ、婦人服を企

画、販売する夢展望株式会社が事業を行っております。

株式会社エンジェリーベはマタニティ商品の販売が堅調に推移しましたが、為替の影響により原価率が上昇し、収益を圧迫してまいりました。今後、商品原価率を改善するため製品生産地の変更を行ってまいります。株式会社馬里邑は専門店・百貨店の販売が予算未達と厳しい状況となりました。今後、催事セール等による在庫削減と同時に訪問販売等の新規販路開拓による売上高の回復を図ってまいります。株式会社アンティローザはリアル店舗販売の落ち込みをネット販売が好調に推移したことにより、トータルで予算達成となりました。

夢展望株式会社は衣料品販売において競争の激化が進む中、同社の強みを活かすため、ターゲット顧客を絞り込み、そこに集中するためのブランド戦略や商品戦略を進めております。しかしながら、棚卸資産評価損の洗替による戻入、広告投資の抑制、人件費等の販売費及び一般管理費の削減効果に伴い昨年対比で損失は縮小しているものの、売上の低迷から脱することができず、業績の回復には至っていない状況であります。また、オムニチャネル戦略の一環として進めていた実店舗事業において収益性の低い店舗は撤退することといたしました。

この結果、アパレル関連事業の売上高は2,166百万円（前第1四半期連結累計期間は992百万円）、営業損益は△106百万円（前第1四半期連結累計期間は△61百万円）となりました。

#### (住関連ライフスタイル事業)

住関連ライフスタイル事業は、株式会社イデアインターナショナルが住関連ライフスタイル商品の企画・開発・製造及び販売を行っております。当第1四半期連結累計期間においてキッチン家電を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が好調に推移し、中でも「ホットプレート」は当初の想定以上の売上を上げました。

また利益面については、コスト削減策の効果が寄与いたしましたでしたが、粗利率の低下、円安の影響による為替差損が発生いたしました。

この結果、住関連ライフスタイル事業の売上高は1,503百万円（前第1四半期連結累計期間は1,179百万円）、営業損益は117百万円（前第1四半期連結累計期間は△17百万円）となりました。

#### (エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業は、SDエンターテイメント株式会社及び株式会社Xio等が事業を行っております。

SDエンターテイメント株式会社はGAME事業部については、平成27年5月に新規店舗として「ディノスパーク南福島店」を出店し、また、ビデオゲームの「鉄拳7」、「Wonderland Wars」などのヒット作があったことや閑散期にクーポンを配布して再来場の促進を行いました。同社フィットネス事業部については、法人契約が増加したこと、オリジナル物販商品のラインナップ拡大や新燃焼系サプリ等の販売強化を推進しました。また、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどのKPIの改善に取り組みました。同社ボウリング事業部については、前期から推進しているボウリング教室を強化し、トーナメント、リーグへ繋げ顧客の拡大を図りました。

株式会社Xioはグループ会社向けのシステム及びウェブサイト構築に加えて、スマートフォン向けアプリ開発を行ってまいりました。平成27年6月26日にゲームアプリ『超銀河秘球 コズミックボール』をiOSおよびAndroidにてサービスを開始いたしました。

この結果、エンターテイメント事業の売上高は2,074百万円（前第1四半期連結累計期間は2,250百万円）、営業損益は△53百万円（前第1四半期連結累計期間は△145百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて11.8%増加し、26,501百万円となりました。これは主として、現金及び預金が2,248百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が1,204百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2.0%増加し、15,823百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて7.9%増加し、42,412百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて4.0%増加し、20,647百万円となりました。これは主として、前受金が1,234百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.7%減少し、11,621百万円となりました。

この結果、総負債は、前連結会計年度末に比べて1.4%増加し、32,269百万円となりました。

### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて35.5%増加し、10,143百万円となりました。これは主として、資本金が1,268百万円増加したこと、資本剰余金が1,589百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績はRIZAP株式会社及び当社通販事業を中心に順調に推移いたしました。新規顧客獲得も順調に推移しており、第2四半期以降においても業績予想どおり前期を大幅に上回る売上高・利益の計上が見込まれており、第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきまして平成27年5月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は445,353千円減少しております。また、当第1四半期連結会計期間末の資本剰余金が321,559千円増加しております。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,686,542	10,934,920
受取手形及び売掛金	8,857,557	10,061,599
商品及び製品	3,474,978	3,380,406
仕掛品	29,201	52,436
原材料及び貯蔵品	451,819	438,678
その他	2,774,620	2,263,960
貸倒引当金	△574,850	△630,347
流動資産合計	23,699,870	26,501,654
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,741,824	5,121,464
土地	2,748,974	2,739,301
その他(純額)	1,951,319	1,852,322
有形固定資産合計	9,442,115	9,713,089
無形固定資産		
のれん	2,473,472	2,399,971
その他	846,659	858,613
無形固定資産合計	3,320,132	3,258,584
投資その他の資産		
投資有価証券	110,153	116,759
その他	2,742,052	2,843,466
貸倒引当金	△106,639	△108,049
投資その他の資産合計	2,745,566	2,852,176
固定資産合計	15,507,815	15,823,850
繰延資産	87,015	86,791
資産合計	39,294,701	42,412,296

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,226,157	1,946,092
未払金	2,938,723	3,130,477
短期借入金	1,706,286	2,450,552
1年内返済予定の長期借入金	4,360,975	4,015,596
未払法人税等	457,724	52,309
前受金	4,372,176	5,606,201
賞与引当金	86,365	86,490
返品調整引当金	77,083	78,653
その他	3,633,880	3,281,002
流動負債合計	19,859,373	20,647,375
固定負債		
社債	3,556,000	3,355,600
長期借入金	6,293,340	6,276,950
役員退職慰労引当金	4,158	-
退職給付に係る負債	48,914	49,759
その他	2,046,678	1,939,400
固定負債合計	11,949,091	11,621,710
負債合計	31,808,465	32,269,085
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	132,518	1,400,750
資本剰余金	221,769	1,811,560
利益剰余金	6,245,096	5,883,912
株主資本合計	6,599,384	9,096,222
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,333	5,356
繰延ヘッジ損益	-	△2,587
為替換算調整勘定	-	△580
その他の包括利益累計額合計	2,333	2,188
新株予約権	21,425	19,247
非支配株主持分	863,092	1,025,552
純資産合計	7,486,236	10,143,210
負債純資産合計	39,294,701	42,412,296



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	8,481,314	12,132,758
売上原価	3,189,125	4,653,423
売上総利益	5,292,189	7,479,335
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	2,134,083	2,780,783
その他	3,617,613	4,670,672
販売費及び一般管理費合計	5,751,697	7,451,455
営業利益又は営業損失(△)	△459,507	27,879
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,264	2,820
その他	14,283	6,206
営業外収益合計	15,548	9,026
営業外費用		
支払利息	60,471	72,100
その他	11,445	40,606
営業外費用合計	71,916	112,707
経常損失(△)	△515,876	△75,801
特別利益		
固定資産売却益	147,720	-
その他	365	-
特別利益合計	148,085	-
特別損失		
固定資産除却損	2,485	-
減損損失	-	35,641
子会社株式売却関連費用	-	16,109
その他	13,723	645
特別損失合計	16,208	52,395
税金等調整前四半期純損失(△)	△383,998	△128,197
法人税、住民税及び事業税	96,021	△97,471
法人税等調整額	△567,035	16,871
法人税等合計	△471,013	△80,600
四半期純利益又は四半期純損失(△)	87,014	△47,597
非支配株主に帰属する四半期純利益	37,533	4,628
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	49,481	△52,225

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	87,014	△47,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	594	3,022
繰延ヘッジ損益	-	△2,587
為替換算調整勘定	-	△580
その他の包括利益合計	594	△145
四半期包括利益	87,609	△47,742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,703	△52,025
非支配株主に係る四半期包括利益	37,906	4,283

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

当社が発行した第1回新株予約権が当第1四半期連結累計期間に行使され、同期間に連結子会社株式会社イデアインターナショナル及びSDエンターテイメント株式会社の株式を一部売却し、また同連結子会社が発行した新株予約権が行使されました。この結果、同期間において資本金が1,268,231千円、資本剰余金が1,589,790千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が1,400,750千円、資本剰余金が1,811,560千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	美容・健康 関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンターテイ メント	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,059,064	992,740	1,179,101	2,250,408	8,481,314	—	8,481,314
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	36,878	52,989	—	89,868	△89,868	—
計	4,059,064	1,029,618	1,232,091	2,250,408	8,571,183	△89,868	8,481,314
セグメント利益又は 損失(△)	△123,271	△61,999	△17,911	△145,156	△348,338	△111,169	△459,507

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	美容・健康 関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンターテイ メント	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,388,721	2,166,671	1,503,021	2,074,343	12,132,758	—	12,132,758
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,960	126,672	4,788	133,421	△133,421	—
計	6,388,721	2,168,632	1,629,694	2,079,131	12,266,180	△133,421	12,132,758
セグメント利益又は 損失(△)	204,461	△106,894	117,126	△53,917	160,774	△132,894	27,879

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

エムシーター株式会社は平成27年5月12日付で発行済全株式を当社からSDエンターテイメント株式会社に譲渡したことに伴い、当第1四半期連結累計期間より美容・健康関連事業からエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

株式会社Xioはゲームアプリ開発の重要性が増したため、当第1四半期連結累計期間より美容・健康関連事業からエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

美容・健康関連事業であったミウ・コスメティックス株式会社は主要事業が介護事業であるため、経営管理の観点から当第1四半期連結累計期間より同様に介護事業を行うSDエンターテイメント株式会社が属するエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第1四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。

(重要な後発事象)

I 株式分割

(株式会社イデアインターナショナル)

平成27年5月12日開催の取締役会において、株式分割による新株式の発行を行う旨の決議をしております。当該株式分割の内容は、次のとおりであります。

1. 株式分割の目的

株式分割を実施することで同社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、流動性の向上及び投資家層の拡大を図ることを目的といたします。

2. 株式分割の概要

(1) 分割の方法

平成27年6月30日(火)を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたします。

(2) 分割により増加する株式数(平成27年5月12日現在の発行済株式総数にて試算)

株式分割前の発行済株式総数	3,033,500株
今回の分割により増加する株式数	3,033,500株
株式分割後の発行済株式総数	6,067,000株
株式分割後の発行可能株式総数	17,984,000株

(注) 上記発行済株式総数は、新株予約権の行使により発行済株式総数が増加する可能性があります。

(3) 分割の日程

基準日公告日	平成27年6月16日(火)
基準日	平成27年6月30日(火)
効力発生日	平成27年7月1日(水)

II 新株予約権の行使による増資

(SDエンターテイメント株式会社)

同社が発行しました第2回新株予約権につき、平成27年7月1日から平成27年8月11日までの間に、以下のとおり行使されております。

平成27年2月12日決議分 新株予約権

(1) 行使新株予約権個数	2個
(2) 交付株式数	20,000株
(3) 行使価額総額	12,990千円
(4) 未行使新株予約権個数	172個
(5) 増加する発行済株式数	20,000株
(6) 資本金増加額	6,518千円
(7) 資本準備金増加額	6,518千円